

1億円産地を目指して!

◆えんだま(枝豆)栽培の令和4年実績報告

新潟県園芸振興基本戦略「販売額1億円の園芸産地創出」の取組みとして、ささかみアグリセンター地区では、農業者の所得向上と農業経営の持続化を目指し、えんだま(枝豆)の産地育成計画を進めています。

今年度は、栽培面積拡大に対応できる「集出荷選別施設」が7月に稼働したことを受け、生産者の栽培技術の向上と、高品質・定量出荷による販路定着・拡大に向けた取組みを、農業者と関係機関・団体一体となって進めてきました。

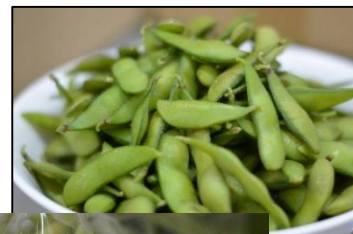
■令和4年度の栽培実績報告

- 栽培面積：19ha (前年10ha) ⇒ R6目標 30ha
- 生産者数：37人 (前年21人)
- 販売額：税込み 34,570千円 (前年19,749千円)
- 総収穫量：76,036kg、製品率76.9%

(前年43,425kg、製品率76.2%)

• 主な取組み

- ① 集出荷選別施設の7月稼働
- ② 「道の駅あがの」と連携した商品開発、雑誌掲載や購入促進イベント等によるPR活動
※ 県の「消費喚起・需要拡大プロジェクト応援事業」を活用
- ③ 生分解性マルチによる作業の省力化の実証、有機質肥料(酒粕と卵殻)を利用した土づくりの実証
※ 国が進める「みどりの食料システム戦略」の取組み



農業用ハウス等の雪害対策

◆自身の安全と大切な農作物を守る、管理・対策の徹底を!◆

～ 冬のハウス等は、屋根の積雪や周囲の点検を十分に行い、被害防止に努めましょう。～

- ① 耐雪型でないハウスは、積雪前にビニールを外しておくなど、大雪に備えた対策を
- ② ビニールハウスの破損部分の補修やマイカー線のたるみを直すなど、強風に備えた対策を
- ③ 必要に応じて、施設内に支柱を設ける等の補強で、積雪に備えた対策を
- ④ 骨組みのみのハウスも、肩丈以上の積雪で損傷の恐れがあるので除雪を行い被害の防止を
- ⑤ 加温設備のある施設は、可能な範囲で設定温度を高め、融雪や滑落を促進し被害の防止を

～ 除雪作業時の事故防止「雪下ろし安全10箇条」で、安全作業に努めましょう ～

- ① 安全な装備で行う
- ② はしごは固定する
- ③ 作業は必ず2人以上で行う
- ④ 足場の確認を行う
- ⑤ 雪下ろしの時は周りに雪を残す
- ⑥ 屋根から雪が落ちてこないか注意する
- ⑦ 除雪道具や安全対策用具の手入れ・点検を行う
- ⑧ 除雪機の雪詰まりはエンジンを切ってから棒などで取り除く
- ⑨ 携帯電話を身につける
- ⑩ 無理はしない

★ JA・農林課・普及センターでは、さまざまな品目の栽培指導や支援を行うなど、園芸生産をサポートしています。ご興味がある方は下記までお問い合わせください。

- 【問い合わせ】
- JA新潟かがやき あがのアグリセンター (樋口・中島) TEL0250-62-2235
 - JA新潟かがやき ささかみアグリセンター (石山) TEL0250-25-7252
 - 阿賀野市農林課農林振興係 (直通) TEL0250-61-2478
 - 新発田農業普及指導センター (野菜) TEL0254-26-9126
 - 新発田農業普及指導センター (花・果樹) TEL0254-26-9155

令和4年度 阿賀野市 園芸研修会を開催しました

地域の特性や優位性を生かした「1億円産地育成計画」の目標達成に向けて、園芸品目の安定・周年供給に取り組む地元農業者の生産現場を会場に、12月8日(木)園芸研修会を開催いたしました。

研修会には、稲作単一経営の農業者など、園芸導入に興味のある方や園芸生産の拡大に意欲をお持ちの農業者の方など、約18名が参加され、現地ほ場での研修に加え、「道の駅あがの」農産物直売所を視察し、園芸作物の栽培から加工・販売まで、農業経営全般について研修してきました。



◆ 熊堂 齋藤剛氏 ほ場 ～ほうれん草の周年栽培～

- ・経営概況：水稲470a
園芸50a（うち、園芸ハウス6棟20a）
- ・平成9年に7棟のハウスを整備し始めた園芸であったが、現在は園芸品目の安定・周年供給に組み、パート従業員2名と栽培にあたりしている。園芸ハウスの作付品目は、ほうれん草を主力に、オータムポエムやトマト・ナスなど、1年をとおして季節の野菜を生産・販売している。



○：播種、△：定植、■：収穫期

品目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ほうれん草	○		○	■	■	○	○		○	■	■	■
オータムポエム	■	■	■							○	△	■

◆ 金淵 曾我憲司氏 ほ場 ～干し大根の製品化の取組み～

- ・経営規模：園芸190a
（園芸ハウス3棟11a）
- ・規格外となるB品・C品大根の活用と、空き育苗ハウスを干場に利用して、令和3年から干し大根の加工と販売を始めた。園芸ハウスでは、いちごを主力に、ミニトマトや大玉トマトを栽培している。露地では、周年供給の取組みとして、冬野菜を栽培し後作に春野菜を作付けしている。



◆ 「道の駅あがの」 ～農産物直売所視察～

「道の駅あがの」農産物直売所を視察し、施設を運営する「株あがの」の駅長さんから、市内で生産されている品目の販売状況や市外産割合が大きい品目が多いこと。販売需要に対して供給が足りていない現状について説明を受け、「道の駅あがの」への出品・販売を考える機会となりました。

阿賀野市のホームページからもご覧いただけます！

阿賀野市 園芸情報

検索

← もしくは、二次元コードを読み取ってください。

